

着眼点3の取組等に対する意見

No.	分野	種類	意見
(1)-1	(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	新規追加	コンポスト導入単位として個人のほかの地域コミュニティ、事業者を加え、さらなる普及に努める。利用経験の積み重ね、学びあいから個人導入の機運も高まることが期待される。桜が丘4丁目、同2丁目自治会での実施例も存在する(ダンボちゃん通信No17より)。店舗裏の小型コンポスト導入を促し、事業系の生ごみ原料につなげることが考えられる。
(1)-2	(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	新規追加	(市) 学校での食育×環境教育の統合(給食残さの見える化、地産地消と堆肥化の循環を学ぶ。教材作成、探求学習で使用)。 (市)(市民) 地域コミュニティコンポスト×学校菜園との連携(回収→堆肥→花壇・菜園への還元)。
(1)-3	(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	修正	修正というわけではないのですが生ゴミについての意見です。ダンボールコンポストは脱水分=減量化、堆肥化=資源化で【3-1】資源循環型の生活の普及の柱になる取り組みだと思えます。ただ、個人として取り組むにはハードルが高いように思えます。自治会の環境部会や公園・緑地・道路の環境アダプト団体等との市民協働は考えられないでしょうか。市民個々への働き掛けから住民組織や団体への働きかけが大切なと個人的な体験(公園ボラ、体験農園利用)から思えます。
(1)-4	(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	新規追加	余剰食品の割引を店舗外から把握できる仕組みを通じて食品ロスの削減を促進することが考えられる。 (事) 事業者は余剰食品の割引の仕組みの導入・普及を図る。 (市/NPO等の団体) 情報を整理して提供する。 (市民) 情報にアクセスして余剰食品を購入
(1)-5	(1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	新規追加	・SNSを活用した『生ごみのもうひと絞りを!』『買いすぎ注意』等の発信 ・エコショップステッカーに【キャッチコピー】を追記する 例:《当店は残さず食べて戴く食材をお売ります!》など ・いわゆる【量り売り】にご協力戴ける食料品事業者の模索(打診)
(2)-1	(2) 使い捨て容器の削減の取組	修正	これも修正ではなく意見です。プラスチック削減はなんといっても製造側・提供側の課題なのかなと思います。実感としてマイバッグ持参がふえていると思います。むしろ「実感として」の部分の客観的な評価尺度があれば市民に広報できるのではないかと(そして、ワタシもマイバッグ!、へ)とも思っています。
(2)-2	(2) 使い捨て容器の削減の取組	修正	シェアリングエコノミー協会のネット情報ですが小学校での歯ブラシ回収の取り組みが紹介されていました。市民協働の環境活動には教育・学習はかせないと思います。小中学校での取り組みは、個々の家庭にも持ち帰られることも多いと思います。
(2)-3	(2) 使い捨て容器の削減の取組	新規追加	・個人商店等を中心に【ブラ容器持参のお客様への食材ばら売り】の可能性をお聞きしてみようか? 例:イチゴのブラ容器持参のお客様への単体販売
(2)-4	(2) 使い捨て容器の削減の取組	新規追加	・エコショップと協力して、【ご自宅にエコバックが余っていませんか?】 【ビニール・プラスチックの削減で地球を守りましょう】等を店舗にPRする ・(質問) 使い捨て容器削減に関して、小売店舗等ほどの程度負担が削減されるか?の感覚は市から聞かれたことがありましたら次回ご紹介下さい
(2)-5	(2) 使い捨て容器の削減の取組	追加	スーパーでは肉や魚は発泡トレーで売られている場合がほとんどです。ビニール袋販売が占める割合が高くなるような取り組みを事業者に働きかけてみてはいかがでしょうか。
(3)-1	(3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点	新規追加	生き物調査隊、環境啓発イベント及びじぶんごとプラネットへの参加数は増加傾向にある。また、まち美化キャンペーンへの参加者数が増加しているのに対して、河川清掃活動への参加者数は伸び悩んでいる。これらのデータから、自らの活動の成果が目に見える活動並びに学習要素のある活動への参加は受け入れやすいといえる。したがって、今後の方向性として、行政+市民又は企業+市民が学習と清掃などの環境活動を融合させた試みを企画・運営するとともに、ごみの減量実績や統計などを積極的に開示することが考えられる。 具体例) 「河川の定期清掃」と「漂着ごみモニタリング/調査などの科学調査」「プラごみのゆくえんについての学習会」の組み合わせ、「自然観察」、「ガサガサ活動」と「ごみ調査散歩」の組み合わせなど。また、1週間のプラスチック使用量記録&可視化できるアプリを配布して、プラごみ減量チャレンジを行うなどゲーミフィケーション要素を取り込んだ活動を行う。

No.	分野	種類	意見
(3)-2	(3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点	修正	修正ではなく意見です。河川清掃活動は着眼点3で取り上げられています。「参考にしていただきたいこと」で「清掃活動はあくまでも手段です」とあるのに同感です。むしろ、着眼点5の各分野の活動を支える新たな市民協働の体制づくり、の視点から見るべき取り組みかなとも思います。参加者数を評価尺度とすることを見直すことも考えられると思います。
(3)-3	(3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点	新規追加	・市民が清掃活動を知る機会がどの程度あるのか？どんな媒体で紹介しているか？などを検証載とともに、多摩市の河川を守りたくなるような募集を試みるのは如何でしょうか？（【今河川が危ない！皆で守りましょう！】等
(3)-4	(3) 河川清掃活動への参加者数がなかなか増えていかない点	新規追加	・単純に「河川をきれいにしましょう」と言っても訴求力は弱い。一般財団法人日本財団スボGOMI連盟が開催する「スポーツごみ拾い」のようにゲーム性を持たせることで、参加者数の増加を図る。
(4)-1	(4) プラスチックの利用の削減	新規追加	包材をプラスチックから紙・バイオプラスチックなど環境負荷の低い素材への切り替えを促進することが考えられる。 （事）紙・バイオプラスチックなど環境負荷の低い素材へ切り替える。 （市）市内事業者による、プラスチックから紙・バイオプラスチックなど環境負荷の低い素材への切替を促進する仕組み作り。生分解性プラ製生ごみ袋の導入。 （市民）紙・バイオプラスチックなど環境負荷の低い素材を利用した商品の購入。生分解性プラ製生ごみ袋の使用。
(4)-2	(4) プラスチックの利用の削減	新規追加	市役所の自販機でのペットボトル飲料の販売中止
【3-1】-1	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）	修正	意見です。今回の「宿題」ですが、市民委員の立場からは、「参考にしていただきたいこと」を参考にして考えると、「市民が自分たちの暮らしを豊かにする環境資源に気づいて、環境活動に踏み出すには、市にどんな支援・仕組みが必要か」という問いに答えることかなと思いました。市民会議が選んだ着眼点3は、「地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり」です。 そこではまず、「誰が」という問いに向き合うこと無しには先に進めないようにおもいます。まして、「持続可能」を考えたら尚更です。「誰が」が多摩市民の一人一人というのではとても難しいように思います。「地域の」というのであれば、やはりその地域内に住所を有する人、その地域の構成員となる人の団体、組織になると思います。自治会や小中学校の学区、コミセンエリア、商店街などです。具体的な個別のテーマで生活の場所につながる市民団体との協働の体制づくりが不可欠のように思います。どちらかといえば、「多摩市の環境資源」というレベルでは、日常生活活動範囲（コミュニティ？）からすると大き過ぎてぼんやりしているように感じます。10の中学校区でさえも「身近なわがごとの環境活動のエリア」とするには苦戦される方も少なくないように思います。環境活動と自治会活動をつなぐ仕組みづくりは「まちづくり（自治といってもいいと思います）」には不可欠のように考えます。
【3-1】-2	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）	新規追加	・市内の産廃排出事業者に対し、優良産廃事業者評価制度（産廃エキスパート、産廃プロフェッショナル）取得事業者を紹介する。 ・運送事業者としてグリーン経営認証制度、ISO14000、東京都の貨物輸送評価制度で三ツ星事業者いずれかを市の入札参加条件とする。
【3-1】-3	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）	新規追加	自分のごみの行方を実感できる場を増やす。特に小学生は在学中に最低1回は清掃工場の見学ができるように教育委員会や学校と協議する。また、食品ロスに関連した話を見学時に行うよう多摩ニュータウン環境組合の協力を得る。
【3-1】-4	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）	修正	市民農園、アダプト制花壇、自治会花壇等への生ごみ肥料の利用促進の働きかけ
【3-1】-5	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）	削除	サブスク、シェアエコについての情報収集や研究を行うことによいとは思いますが、市場性が高いことからトラブルが発生した場合に市では対応できないことが予想できる。
【3-1】-6	その他（【3-1】資源循環型の生活の普及）		現在ある庭用のプラスチック製コンポストを小さくした集合住宅のベランダ用のものを廉価で販売してはどうでしょうか。団地やマンションの敷地内に、住民がコンポストで出た堆肥を捨てられる場所を行政が援助する仕組みを取り入れたいかがでしょうか。
【3-2】-1	その他（【3-2】プラスチック対策の推進）	新規追加	店舗等で実施しているプラスチック製品等(コンタクトレンズのケース、ハブラシ、パウチ、ペンなど)の回収についての紹介
【3-2】-2	その他（【3-2】プラスチック対策の推進）		マイボトル用給水機存在を市民に浸透しているとは思えません。公共施設で給水機の有無を尋ねてもマイボトル用給水機存在自体を知らない人が多いようです。
【3-3】-1	その他（【3-3】食の地産地消の普及）	新規追加	・食材の地産地消の利点として【搬送距離縮小による排気ガス削減】【低価格】【より新鮮な食材を食べられること】【多摩市内に投資できること】等、市民目線で数多くの利点があることを簡単な言葉で紹介すると良いかと思えます。
【3-3】-2	その他（【3-3】食の地産地消の普及）		年末に市役所駐車場で開催されているような販売会を、もっと多くの機会、場所で開催してみてもどうでしょうか。
【3-3】-3	その他（【3-3】食の地産地消の普及）		一般家庭が地元農家と契約して作物を購入できるシステムを構築してみたいかがでしょうか。

No.	分野	種類	意見
その他 -1	全分野共通	新規追加	各主体別の取り組みに加え、市民、事業者及び市の共創による取り組みを具体的に計画し、その実施を通じて普及啓発、スタンダード形成を促すことを明記することが考えられる。 具体例) フェス会場において行政がプラスチック使用制限・リユース容器使用義務化、使い捨て禁止を定めることを通じて周知、利用を促す機会とする。
その他 -2	全分野共通	新規追加	あたらしい試みは一步を踏み出すのが困難。フェスはリユース食器の使用を促す良い機会。それと並行して、リユース容器導入や洗浄設備への補助、リユース容器の回収拠点設置を進め、回収、返却を普及、定着させ、将来的には条例などのルール化を視野に入れる。〈実験、行動変革〉から〈ルール化〉へ
その他 -3	その他 (1) 生ごみや食品ロス削減に向けた啓発について	新規追加	着眼点3に特化したものではないが、 緑の市民活動団体数減少に歯止めをかけるとともに、反転させるには、長期間を要することから、早急に対策を講ずるべきであると考え。 具体例) ①イベント参加から団体加入へ 学校教育→親子参加→各種団体加入など、イベント参加による一回性に終わらせず、段階的、継続的に活動できる情報提供、仕組みづくりを行う。 ②市民参画から団体加入へ 地球市民会議参加者をはじめとする、自然・生活・地球環境・環境活動関連イベントの参加者に対し、そのイベント開催時に関連団体の紹介を行い、活動への関与を働きかけるなどすることが考えられる。 ③育成講座から団体加入へ 市民活動リーダー育成講座の開催などを通じて人材育成を行う。
その他 -4	その他		「多摩市気候市民会議の評価を踏まえ、着眼点3「地域の資源を生かし、持続可能な資源利用を実現するまちづくり」の取組の中から、見直すべき取組み（「重点的に実施する取組」及び「改善すべき取組み」）があるか確認する。」は、大変良い方向性と考えます。
その他 -5	その他		市民、事業者、市の取組とありますが、市の取組に対して市民の取組項目が少なく感じます。 市民の取組をもう少し厚くできると、市民の皆様にも身近なものに感じられるのではないかと思います（市民の取組を増やせなければ、市の取組を減らして、相対的に市民の取組を多く見せるのもひとつの見せ方かと）。
その他 -6			<着眼点3を通じた意見> ・報告書スライドP26市民会議の評価：「ダウン傾向が多くて意識して行うべき」 マイバッグ83.5→80.6、河川清掃参加人数206→122、河川清掃回数11→10・・・ダウン傾向が多いと評価するレベルではない。調査環境や天候に左右されるような指標に一喜一憂していると、自らの首を締めることになるのでは？